

## 【イギリス】刑務所内における薬物等の検査を強化する法律

主任調査員 海外立法情報調査室 上綱 秀治

\* 2021年4月、刑務所内で多発している被収容者による薬物等の不正使用に対処するための検査を強化する法律が制定された。

### 1 刑務所における被収容者による薬物等の不正使用・検査

イングランド及びウェールズの刑務所等（以下「刑務所」）では、刑務所内で被収容者が薬物等を不正使用している事例が多数判明している。被収容者による薬物等の不正使用は、刑務所内での暴力、犯罪等を助長し、刑務所職員の安全や効果的な管理体制の実現を脅かすため、刑事司法制度が直面する最大の課題の一つとなっている<sup>1</sup>。

#### (1) 薬物等の種類

被収容者による刑務所内での不正使用が判明している薬物等には、従来の規制薬物<sup>2</sup>（オピオイド<sup>3</sup>や大麻など）に加え、近年では、精神作用物質<sup>4</sup>（合成カンナビノイド<sup>5</sup>など）、処方箋薬、薬局販売薬もある。

#### (2) 薬物等の不正使用の状況

刑務所は、1999年刑務所規則<sup>6</sup>（以下「1999年規則」）及び2000年若年犯罪者施設規則<sup>7</sup>（以下「2000年規則」）に基づき、規制薬物に関して被収容者に強制検査を行うことができる。強制検査と並んで、定期的な匿名蔓延（まんえん）度検査も行われている。匿名蔓延度検査は、検査対象者を特定できないように匿名化した検体を用いて行われ、新しい薬物等を検出するのに有用とされる。しかし、この検査は従来、明確な法的根拠がないまま行われてきた<sup>8</sup>。

被収容者に対する薬物等検査の陽性率は、規制薬物と精神作用物質に分けて公表される。規制薬物の無作為検査の陽性率は、2012-13年度から2017-18年度までの間に7.0%から10.6%に上昇した。また、2017-18年度の検査では、陽性の検体のうち60%が精神作用物質であり、規制薬物よりも精神作用物質の方が多く使用されていることが判明した<sup>9</sup>。

\* 本稿におけるインターネット情報の最終アクセス日は、2023年1月16日である。

<sup>1</sup> HM Prison & Probation Service, “Prison Drugs Strategy,” 2019, p.3. <[https://assets.publishing.service.gov.uk/government/uploads/system/uploads/attachment\\_data/file/792125/prison-drugs-strategy.pdf](https://assets.publishing.service.gov.uk/government/uploads/system/uploads/attachment_data/file/792125/prison-drugs-strategy.pdf)>; 薬物等は、面会時の手交、郵便、塀の外からの投げ込み等の様々な方法により刑務所内に持ち込まれる。idem, p.8.

<sup>2</sup> 規制薬物は、1971年薬物乱用法（Misuse of Drugs Act 1971 c.38. <<https://www.legislation.gov.uk/ukpga/1971/38/contents>>）で定義されている、薬物として規制される物質。

<sup>3</sup> オピオイド（opioid）は、芥子（けし）の実から抽出される、アヘンの成分であるモルヒネに類似した鎮痛作用と麻酔性をもつ物質の総称。日本薬学会編『薬学用語辞典』東京化学同人、2012, p.66.

<sup>4</sup> 精神作用物質は、2016年精神作用物質法（後掲注(15)）で定義されており、それを消費する者に精神作用の効果をもたらすことができる物質（適用除外物質を除く。）で、人の中枢神経系を刺激又は抑制することにより、その者の精神機能又は情動の状態に影響を与える。適用除外物質には、所定の要件を満たす医薬品、アルコール、ニコチン・タバコ製品、カフェイン、食品等が該当する。

<sup>5</sup> 合成カンナビノイド類は、興奮、鎮静、幻覚など、様々な中枢作用を有する。日本薬学会編『薬毒物試験法と注解2017』東京化学同人、2017, p.34.

<sup>6</sup> The Prison Rules 1999 No. 728. <<https://www.legislation.gov.uk/uksi/1999/728/contents>>

<sup>7</sup> Young Offender Institution Rules 2000 no.3371. <<https://www.legislation.gov.uk/uksi/2000/3371/contents>>

<sup>8</sup> “Prisons (Substance Testing) Bill: Explanatory Notes,” 2020, pp.2-3. www.parliament.uk website <<https://publications.parliament.uk/pa/bills/cbill/58-01/0017/en/200017en.pdf>>

<sup>9</sup> HM Prison & Probation Service, op.cit.(1), pp.3, 9.

一方、刑務所監査局<sup>10</sup>が2015年に作成した成人刑務所における薬物乱用の形態変化の傾向に関する調査報告書によると、被収容者の10人に1人がオピオイド代替薬（オピオイド依存症等に用いられる処方箋薬）又は自身に処方されていない薬を使用したことがあり、18%は少なくとも1種類の薬を不正使用したことがあると回答した。また、服役中に違法な薬を使用したことがあると回答した者のうち、6%が服役中に薬に頼るようになったと回答している<sup>11</sup>。

## 2 法律制定の経緯等

精神作用物質の化学組成は短期間に変えられる可能性があり、新しい薬物等を適切に検知し、対処を行うためには、新たに確認された薬物等を個々に1999年規則及び2000年規則に追加する改正を繰り返す必要があった。しかし、それでは規則の改正が完了するまで新しい薬物等への対処が遅れることになる<sup>12</sup>。また、刑務所内での処方箋薬や薬局販売薬の不正使用も判明している。このような状況等に対処するため、2021年4月29日、2021年刑務所（物質検査）法<sup>13</sup>が制定され、同年12月8日に施行<sup>14</sup>された。同法は、全3か条から成り、イングランド及びウェールズに適用される。

## 3 2021年刑務所（物質検査）法の概要

2016年精神作用物質法<sup>15</sup>が定める精神作用物質の定義を採用するために必要な修正等を1952年刑務所法第16A条（薬物に対する被収容者の検査）に加える。これにより、以後、化学組成がわずかに異なる新たな精神作用物質が出現した場合であっても、2016年精神作用物質法の定義に含まれる精神作用物質であれば、刑務所で検査を行えるようになる。主な改正内容は、次のとおり。

1952年刑務所法第16A条の見出し（薬物に対する被収容者の検査）の「薬物」の後に「精神作用物質及びその他の物質」を加える。薬物等検査の対象として、規制薬物、薬局販売薬、処方箋薬、精神作用物質、特定物質<sup>16</sup>を規定する。主務大臣は、規制薬物、医薬品<sup>17</sup>、精神作用物質、特定物質の匿名蔓延度検査を実施できるものとする。1952年刑務所法第16A条第3項の「刑務所規則」の定義に「精神作用物質」は、2016年精神作用物質法におけるのと同じ意味を有する。」を追加する（第1条）。

第1条の改正に伴い、1952年刑務所法、1999年規則、2000年規則等の関連法令を改正し、又は廃止する（第2条）。

<sup>10</sup> Inspectorate of Prisons. 刑務所、若年犯罪者施設、入国者収容施設等の状況や処遇について調査・報告を行う独立監査機関。"What we do," 2022.7.18. HMI Prisons website <<https://www.justiceinspectors.gov.uk/hmiprisons/about-hmi-prisons/>>

<sup>11</sup> HM Inspectorate of Prisons, "Changing patterns of substance misuse in adult prisons and service responses: A thematic review," 2015.12, pp.21, 28, 34. <<https://www.justiceinspectors.gov.uk/hmiprisons/wp-content/uploads/sites/4/2015/12/Substance-misuse-web-2015.pdf>>

<sup>12</sup> *op.cit.*(8), p.2.

<sup>13</sup> Prisons (Substance Testing) Act 2021 c.18. <<https://www.legislation.gov.uk/ukpga/2021/18/contents>>

<sup>14</sup> The Prisons (Substance Testing) Act 2021 (Commencement) Regulations 2021 No.1280 (c.73) <<https://www.legislation.gov.uk/uksi/2021/1280/contents/made>>

<sup>15</sup> Psychoactive Substances Act 2016 c.2. <<https://www.legislation.gov.uk/ukpga/2016/2/contents>>

<sup>16</sup> 1952年刑務所法第16A条の適用にあたり、同法第47条（刑務所および若年犯罪者留置場の管理に関する規則）に基づき規定される、規制薬物、薬局販売薬、処方箋薬、精神作用物以外の物質又は製品。

<sup>17</sup> 「医薬品」は、「薬局販売薬」や「処方箋薬」よりも広いカテゴリーの物質。 *op.cit.*(8), p.4.